

非母語話者向けガリシア語教材で扱われるテーマについての一考察

—言語回復政策の一環としての対外普及政策は何をめざしているのか—

柿原武史

1. はじめに

本稿の目的は、スペインの地域少数言語の 1 つであるガリシア語の対外普及政策の一環としてのガリシア語非母語話者に対するガリシア語教育政策が何をめざし、その効果が翻ってガリシア自治州におけるガリシア語話者を含む住民の言語観にどのような影響をもたらしうるのかを考えることである。具体的な方法としては、ガリシア語非母語話者向けに自治州政府言語政策局が編集、出版したガリシア語教材 *Aula de Galego 1~4* を対象とし、その中でどのような題材が扱われているのかを分析する。その際、2004 年に自治州議会で採択された『ガリシア語正常化総合プラン (Plan Xeral de Normalización da Lingua Galega、以下 : PXNL)』の内容がいかに反映されているのかという指標を用いる。これにより、ガリシア自治州政府が非母語話者向けガリシア語教育を通してどのようなイメージを対外的に広めようとしているのかを明らかにし、それがガリシア語回復政策にどのような影響を与えるのかを考えるために手掛かりとしたい。

2. 非母語話者向けガリシア語教育を取り上げる意義

2.1. 新話者としての非母語学習者

Fernando Ramallo は、近年の少数言語の状況に変化をもたらす最も重要な場は学校教育であることには幅広いコンセンサスがあり、そこで学習者がその言語の基礎的な口語能力を獲得した時に、好意的な動機づけがあれば新話者 (neofalante) になると指摘している (Ramallo 2013:249)。本稿の筆者は、対外普及政策の目的の一つに「ガリシア人自身のガリシア語に対する社会的イメージの向上」(萩尾・長谷川・塚原・柿原 2015:140) が挙げられていることに注目している。つまり筆者は、ガリシア自治州外でガリシア語を学び、話すようになる者の出現がガリシア語の回復政策にプラスの影響を与える可能性について関心を有しているのである。そのため、本稿ではガリシア自治州外出身のガリシア語学習者を一種の「新話者」の候補者と捉え、そうした学習者向けの教材を分析し、ガリシア語に関するいかなるイメージが普及されうるのかを明らかにする。

2.2. 「外国語」としてのガリシア語教育

筆者は、これまでにガリシア語の対外普及政策について研究をおこない、ガリシア自治州外に居住するガリシア人移住者の互助組織について調査をおこなった。これらの研究は、在外ガリシア人コミュニティーでは継承語としてのガリシア語教育が非常に限定的に実施されている実態を明らかにした (柿原 2017、Kakihara 2016、Kakihara 2019)。

本研究で対象とするのは、ガリシア語を「外国語¹ (lingua estranxeira)」として学ぶ学習者向けのガリシア語教育である。「外国語」としてのガリシア語教育は、域外在住のガリシア移民やその子孫に対する継承語教育と並び、ガリシア語対外普及政策の柱の一つである。その学習者の中心はガリシア自治州内外の教育機関で実施されるガリシア語講座で学ぶ者である。ガリシア語が日常的に話されている社会における第二言語としてのガリシア語学習者も対象として含まれうるが、これらの教材にはガリシアについての基本的情報の紹介などもあるため、本稿ではこれら教材の対象者を「外国語」としてガリシア語を学ぶ学習者に限定する。つまり、ガリシア自治州外の出身者がガリシア自治州内外でガリシア語を学ぶ場合に用いる教材であると解釈する。

「外国語」としてガリシア語を学ぶ学習者は、ガリシア語の回復にとって大きな可能性を秘めている新たな「新話者」になりうる存在である。そのため、それらの学習者に対するガリシア語教育とその教材が、学習者にどのようなイメージをもたらしうるのかは、ガリシア語回復政策の将来を考える上で、非常に重要であると考えられる。

3. PXNL が提案する施策とガリシア語教材 *Aula de Galego 1~4*

3.1 ガリシア語正常化総合プラン

ガリシア自治州議会は、2004年9月22日に『ガリシア語正常化総合プラン (PXNL)』という文書を承認した。この文書は、ガリシア自治州言語政策局の Web サイトによると、「1983 年言語正常化法²制定以来、ガリシア語の社会的使用を拡大する政策の最も重要な前進の一つ」(Secretaría Xeral da Política Lingüística) だという。この文書は、それ以降、ガリシア語回復政策の具体的施策を実施する際に参照される指針となっている。

同文書は、まず 5 つの大きな目標を掲げている (p.39)。それは、「1. ガリシア語で生活することを望む人がそうできるように保障する。2. 戰略的なセクター (正常化を達成する上で戦略上重要な分野) でガリシア語の存在を優先することで、ガリシア語の社会的機能と使用領域を拡大する。3. 新たな言語共存の精神における丁寧さの規範として、社会においてガリシア語で市民や顧客に応対することを積極的に提供する。4. 偏見を是正し、敬意を強化し、需要を増大させるようなガリシア語に好意的で有用で現代的な見方を促進する。5. ガリシア語と現代生活とを結びつけるのに必要な言語的および技術的リソースをガリシア語に与える」(筆者訳、括弧内筆者補足) というものである。そのうえで、社会を 3 つの横断的セクター³ (Sectores transversais) (p.43) と 7 つの垂直的セクター⁴ (Sectores verticais) (p.44) に分類し、7 つのセクターを更に諸領域 (áreas) に分類

¹ 「外国語」という用語は、「国」という語が入っているため、国家語を単位とした概念と言える。そのため国家内の地域少数言語はその範疇には入らない。しかし、本稿で扱う対象である地域少数言語をその域外の出身者が学習する場合に適した日本語で通用している用語がないため、本稿ではカギ括弧付きの「外国語」と表記する。

² Lei 3/1983, do 15 de xuño, de normalización lingüística

³ 言語権、新技術、コーパスの実施の 3 つのセクター。

⁴ 1. 行政部門、2: 教育、家族、若者、3: メディア、文化産業、4: 経済、5: 保健衛生、6: 社

している。そして、それぞれの領域でのガリシア語使用実態を分析し、弱点と強みとなる点を指摘したうえで、ガリシア語使用を有利にし、すべての市民がガリシア語で完全に生活できることを保障するための400余りの施策を提案している。



図1：PXNL：3つの横断的セクター

Secretaría Xeral da Política Lingüística (p.43)

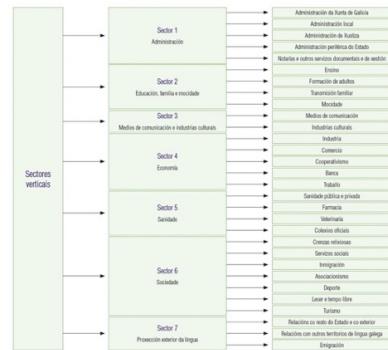


図2：PXNL：7つの垂直的セクター

Secretaría Xeral da Política Lingüística (p.44)

3.2 PXNL が提案する施策でガリシア語教材に関連しうるもの

筆者は、PXNL が現行のガリシア族自治州における言語政策の指針となっている現状を踏まえ、教材で扱われている内容・テーマを分析する際に、同文書で提案されている諸施策に従って分類することにした。つまり、PXNL において今後のガリシア語回復政策を進める上で重要であると考えられている施策のうち、どのようなものが教材で重点的に扱われているのか、あるいは扱われていないのかを明らかにすることで、同教材がめざす方向性を知ることができると考えたためである。

教材内容の分析をするために、筆者は PXNL が 7 つの垂直的セクター内の各領域で提案している合計 400 余りの諸施策から、ガリシア語の教材の内容に関連しうるものを集約し、以下のように 17 種類に分類した（表 1）⁵。なお下線を引いた施策については、他のセクターにおける施策と内容的に重複するので、より代表的な施策に筆者が集約した⁶。また、教材にはいずれにも該当しない内容も出現することが予想されるので「その他」も加えた。本研究では、これら 18 項目を基準として教材の内容の分類をおこなう。

会、7：言語の対外普及の 7 つのセクター。

⁵ PXNL は各セクターを更に領域に分け、その領域内で複数の施策を提案している。例えば、セクター2「教育・家族・若者」を、領域1「教育」、領域2「成人教育」、領域3「家族内継承」、領域4「若者」の4つの領域に分け、各領域内で複数の提案をしている。そして、セクター2、領域4「若者」では、2.4.1.から 2.4.20.までの 20 の施策を提案している。筆者による分類では便宜上、1 から 18 までの通し番号を付したため、PXNL の「領域」番号とは一致しない。

⁶ 例えば、施策 2.4.19 「ガリシアで上映される映画のガリシア語への吹き替えを奨励し、カスティーリャ語の映画と同等の条件での配布と上映を保証する」は領域4「若者」で挙げられているが、これは映画におけるガリシア語使用に関する事柄であり、セクター3「コミュニケーション・メディアと文化産業」内の領域2「文化産業」内の映画と重複するため、筆者はセクター3内の「文化産業：ガリシア語による映画、音楽、文学、演劇」に集約した。

表1：PXNLが7つのセクター内で提案する施策のうち教材内容に関連しうるもの

		PXNLにより提案されている施策の筆者による集約	筆者による再集約
セクター1	行政部門	1. 行政：行政文書、窓口対応でのガリシア語使用	
セクター2	教育・家族・若者	2.教育：学校教育制度内の教育現場でのガリシア語使用 3.若者文化：パブ、ディスコ、音楽バーなど <u>視聴覚メディア、音楽、電子メディア、ゲーム</u> <u>スポーツ</u> <u>映画など</u>	→13. →12. →7.
セクター3	コミュニケーションメディアと文化産業	4.（テレビ・ラジオ） インタビューでのガリシア語使用 5.広告でのガリシア語使用 6.ポルトガル語圏とのつながり 7.文化産業：ガリシア語による映画、音楽、文学、演劇 <u>ネット、携帯</u>	→13.
セクター4	経済	8.ガリシアの主力商品とガリシア語 <u>観光、農業観光</u> 9.商業場面でのやりとり、多言語タグ、企業の言語使用など <u>広告</u>	→14. →5.
セクター5	保健衛生	10.医療機関、医薬品、獣医学とガリシア語	
セクター6	社会	11.移民の文化、多文化表象 12.スポーツ 13.紙媒体、視聴覚メディア（TV, CD, DVD）、電子メディア（ネット、携帯）、ゲーム（機） <u>音楽、映画などコンテンツ</u> 14.観光、巡礼、飲食宿泊業（メニュー、観光地案内、看板）	→7.
セクター7	ガリシア語の对外普及	15.外国人向けガリシア語教育 16.ガリシア（全般）、ガリシア語、ガリシア文学の紹介 17.ガリシア域外のガリシア人コミュニティー 18. <u>その他...いずれにも当てはまらないもの</u> （筆者が設定）	

筆者作成

3.3 ガリシア語教材 *Aula de Galego 1~4*

本研究で分析対象とする教材 *Aula de Galego* (Chamorro, Margarit, da Silva, Ivonete e Núñez, Xaquín著)⁷は、レベル別で1~4の4冊が2008年から2009年に刊行された。自

⁷ 自治州言語政策局のWebサイト (<https://www.lingua.gal/o-galego/aprendelo>) でダウンロード可

治州政府が出版元となっていることから、自治州政府のガリシア語対外普及政策の指針を反映した教材といえる。よって、PXML の内容も反映されていると考えられる。同教材作成プロジェクトは「現在ガリシア内外で実施されている様々な講座のニーズに適切に対応した教材がないという認識に基づいて生まれた」(Chamorro 他 2014:4)。また、Celga (Certificado de Estudios de Lingua Galega : ガリシア語能力証明) 試験の準備講座と、内外の大学が提供するガリシア語講座に対応するために開発されたという (Chamorro 他 2014:4)。内容に関しては、「既存の教材の多くは、基本的に構造的なアプローチをとっており、言語的、テーマ的、文化的な観点から、あまり多様な内容を扱っていない」(Chamorro 他 2014:4) と指摘しているため、本教材は言語的、テーマ的、文化的に多様なテーマを扱っていると考えられる。そのため、これらの教材は「外国語」としてのガリシア語学習者に対し、ガリシア語やガリシア社会について、どのようなイメージを広めうるのかを考察する上で重要な資料となるといえる。

4. Aula de Galego 1～4 の内容分析

4.1 教材内のアクティビティの分類

ガリシア語教材 *Aula de Galgeo 1～4* が扱っている内容を分析するために、文法項目のみの説明を除くすべてのアクティビティや課題を、3.2 で集約した 18 の項目のいずれを扱っているかに従って分類する。例えば、観光名所の写真を見て、それぞれの地名を選ぶ課題 (図 3) は、「14. 観光、巡礼、飲食宿泊業 (メニュー、観光地案内、看板)」に分類する。ただし、1 つのアクティビティが複数のテーマを扱っている場合は、それぞれに重複して分類する。例えば、不動産広告を読み解き、複数の顧客カードを見て、それぞれに適した物件を提案するというアクティビティ (図 4) は、「5. 広告でのガリシア語使用」だけでなく、「9. 産業、商業でのガリシア語使用」にも分類できる。また、住宅関連の語彙を学ぶことにも重点がおかれているため「18. その他」にも分類できる。

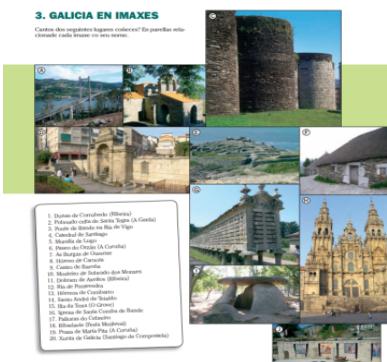


図 3 : *Aula de Galego 1* Unidade 1-3 p. 11



図 4 : *Aula de Galego 1* Unidade 3-2 p.27

このようにして分類した結果が以下の表 2 である。対象となった課題、アクティビティ能。

イー数は、*Aula de Galego 1* は 123、*Aula de Galego 2* は 104、*Aula de Galego 3* は 92、*Aula de Galego 4* は 95 であった。複数の項目で重複してカウントしたものもあるが、各テキストにおける各項目の割合を比較するために、全アクティビティに占めるそれぞれの項目に分類された課題数の割合を算出した。

表 2 : PXNL 諸施策に基づく *Aula de Galego 1, 2, 3* のアクティビティの分類

	<i>Aula 1</i>	全 123 %	<i>Aula 2</i>	全 104 %	<i>Aula 3</i>	全 92 %	<i>Aula 4</i>	全 95 %
(1) 行政文書、窓口対応でのガリシア語使用	1	0.8	6	5.8	6	6.5	4	4.2
(2) 学校教育制度内現場でのガリシア語使用	2	1.6	7	6.7	17	18.5	6	6.3
(3) 若者文化（パブ、ディスコ、音楽バー等）	7	5.7	5	4.8	7	7.6	1	1.1
(4) インタビューでのガリシア語使用	11	8.9	3	2.9	12	13.0	11	11.6
(5) 広告でのガリシア語使用	6	4.9	12	11.5	3	3.3	7	7.4
(6) ポルトガル語圏とのつながり	2	1.6	1	1.0	0	0.0	3	3.2
(7) ガリシア語映画、音楽、文学、演劇	13	10.6	15	14.4	3	3.3	18	18.9
(8) ガリシアの主力商品とガリシア語	5	4.1	1	1.0	2	2.2	0	0.0
(9) 産業、商業でのガリシア語使用	19	15.4	19	18.3	35	38.0	28	29.5
(10) 医療機関、医薬品、獣医学とガリシア語	6	4.9	4	3.8	4	4.3	0	0.0
(11) 移民の文化、多文化表象	8	6.5	7	6.7	5	5.4	1	1.1
(12) スポーツ	4	3.3	2	1.9	5	5.4	4	4.2
(13) 紙媒体、視聴覚、電子メディア、ゲーム	10	8.1	21	20.2	28	30.4	35	36.8
(14) 観光、巡礼、飲食宿泊業	17	13.8	6	5.8	11	12.0	16	16.8
(15) 外国人向けガリシア語教育	6	4.9	5	4.8	7	7.6	2	2.1
(16) ガリシア（全般）、ガリシア語の紹介	13	10.6	18	17.3	10	10.9	29	30.5
(17) ガリシア域外ガリシア人コミュニティー	5	4.1	8	7.7	2	2.2	5	5.3
(18) その他	69	56.1	49	47.1	66	71.7	65	68.4
	204		187		223		235	

筆者作成

これを見ると、いずれも「その他」の割合が最も高いことがわかる。これは、特定の分野に関する語彙を扱ったアクティビティを「その他」に分類したためである。また、日常生活における行動を描写する課題など、語学教材で比較的よく扱われるテーマも多く、これらは社会でのガリシア語使用の拡大に主眼をおいた PXNL の内容とは合致しなかったため、「その他」に分類した。それぞれの教科書で「その他」以外で多く現れた項目の上位 5 位までをまとめると、表 3 のようになった。

表3：各テキストのアクティビティ一分類、上位5位（「その他」除く）

	<i>Aula de Galego 1</i>	%	<i>Aula de Galego 2</i>	%	<i>Aula de Galego 3</i>	%	<i>Aula de Galego 4</i>	%
1.	9. 産業、商業	15.4	13. メディア	20.2	9. 産業、商業	38.0	13. メディア	36.8
2.	14. 観光	13.8	9. 産業、商業	18.3	13. メディア	30.4	16. ガリシア（語）	30.5
3.	7. 映画、音楽、文学	10.6	16. ガリシア（語）	17.3	2. 学校教育	15.2	9. 産業、商業	29.5
4.	16. ガリシア（語）	10.6	7. 映画、音楽、文学	13.5	4. インタビュー	13.0	7. 映画、音楽、文学	18.9
5.	4. インタビュー	8.9	5. 広告	11.5	14. 観光	12.0	14. 観光	16.8

筆者作成

それぞれの教科書で上位に現れた項目にはばらつきもあったが、共通して多く扱われているテーマもあった。表3では、3冊以上に共通して上位5位に入った項目を太字にした。つまり、「7. 映画、音楽、文学、演劇」、「9. 産業、商業」、「13. メディア、ゲーム」、「14. 観光、巡礼、飲食宿泊業」におけるガリシア語使用、「16. ガリシア全般、ガリシア語についての紹介」が複数の巻で多く扱われている項目であることがわかる。

4.2 *Aula de Galego 1~4* で多く扱われている項目の具体例

この教材シリーズを用いてガリシア語を学ぶ学習者たちは、これらの内容を通して、ガリシア語とガリシアに関するイメージを形成していく事になりうるのである。次に、いくつかのアクティビティの内容を具体的に見てみよう。



図5：*Aula de Galego 2* Unitade 10-1 p.82



図6：*Aula de Galego 1* Unidade 5-2B p.44



図7：*Aula de Galego 2* Unidade 6-12 p.56



2. HISTORIAS DE BALBINO
Xosé Neira Vilas, escritor galego en Galicia, comezou as memorias de seu Balbino nun dos momentos finais da literatura galega. No quer rememorar da historia de Galicia con apelo a memoria, senón organizar fragmentos de Memorias dun neno labrego.

Xosé Neira Vilas
Hai moitos meses que nesa illa de Miquel, nado en Vigo, pasou Andalucía, onde lombres de cardo se amontonan, e nos nos. Miles nata, a tía Camer e a tía Chiquita. Mes que estabas certo como se pasabas o dia, non nado nadie, os homes non beben. O proxecto non era ser unha Celta, que está servindo en Lourdes, senón que recado recado pero son a devoción en seños.

Recado que non se sabe de nadie. Ningún facía caso de mim. Bellas a daffle conxello o vixiante mestres non chegaba o coche de lista. Miquel dícta a todo que se podesen ditar, e non se podesen ditar, e non se podesen ditar, e píñame a contártelo os dedos para un lado e para o outro, e non se podesen ditar, para que Miquel marchase. Despois contármole moitas cosas. El eu díftas na memória. Contármole moitas cosas. El eu díftas na memória. Amouse e desfíllase ó dí da orfeira: "Eu quería que se vivese en Galicia, que se viviese en Galicia, e contámenme historias dala". Sorría, piñouse unha man na cadera e esquebúndose.

Memorias dun neno labrego
Xosé Neira Vilas

Algunas fitos na historia de Galicia.

831. Descubrimento do sepulcro do Apóstolo. Comezou as peregrinacións polo Camiño de Santiago.

1431. Guerra Irmandina. Levantamento campesiño contra os abusos dos señores.

1522. Domínio da monarquía castelá sobre a nobreza galega.

1485. Creación da Universidade de Santiago de Compostela.

1809. Batalla de Ponte Sampaio contra a invasión francesa.

1861. Revolucionario Iacobino da cos Xogas. Apresamento de Xosé Martínez e a publicación de *Cartas Gallegas de Rosalía de Castro*.

1900. Concentración e incremento dos fluxos migratorios cara a América a mediados dos anos 50.

1910. Creación das imandábanas. Fala, imposto e imposto de consumo, de revisión da lingua e dunha maior autorización para a publicación en Galicia.

1931. Proclamación da II República.

1936-1939. Guerra Civil española que dá

図 9 : *Aula de Galego 2 Unidade 2-2 p.19*

図 10 : *Aula de Galego 2 Unidade 10-4 p.84*

図 5 は中級教材のアクティビティーである。ガリシア人作家の文学作品 4 点の一部を紹介し、それぞれがいずれのジャンル（詩、物語、戯曲、小説）に属するかを考えさせ、さらに内容を読ませる課題である。これは「7. ガリシア語映画、音楽、文学、演劇」に分類でき、ガリシア文学に関して、作家や作品についての知識を提供している。

図 6 は、初級教材のアクティビティーで、商店での店員と顧客とのダイアログを読んだ後、イラストと結びつける課題である。「9. 産業、商業でのガリシア語使用」に分類でき、店員と顧客との間の通常のやり取りでガリシア語が使われていることを印象付ける効果が考えられる。また、中級以上の教材では、電子メールでのやり取りや求人情報や広告など書きことばでのガリシア語使用を扱った課題も多く見られた。

図 7 は、中級教材のアクティビティーで、携帯電話の SMS や絵文字（emoticono）といった当時最新の電子メディア上でガリシア語使用について扱った講読課題である。

「13. 紙媒体、視聴覚、電子メディア、ゲーム」に分類でき、最新のメディア上でガリシア語が流通していることを印象付ける効果がある。また、この文章自体が、ガリシア語が電気通信などの技術分野の話題を語ることができる言語であることを印象付けているといえる。若者の言語使用についても扱っているため、「3. 若者文化」にも分類した。

図 8 は上級教材のアクティビティーで、ガリシアの各地の集落における歴史遺産についての報道記事を読み議論する課題である。観光地についての情報を提供しているため、「14. 観光、巡礼、飲食宿泊業」に分類できる。また、報道記事という設定であるため、「13. 紙媒体、視聴覚、電子メディア、ゲーム」にも分類した。単なる観光地の紹介にとどまらず、各地の課題や遺産保存のための取り組みなどを紹介しており、ガリシア社会について興味関心を持たせる効果がある。

図 9 と図 10 は中級教材のアクティビティーで、図 9 は作家 Xosé Neira Vilas の作品 *Memorias dun neno labrego* の一部を読む課題で、図 10 はガリシア主義者の作家で詩人の Celso Emilio Ferreiro Míguez の生涯を紹介した文を読む課題である。いずれも作家や作品の紹介だけでなく、ガリシアの歴史やアメリカ大陸への移住や亡命についてなど、近現代のガリシア社会について学べる内容となっている。そのため、「7. ガリシア語映画、音楽、文学、演劇」および「16. ガリシア（全般）、ガリシア語の紹介」に分類した。

4.3 まとめ

本節では PXNL が提案している施策の内容を集約したものに基づき、*Aula de Galego 1 ~4* のアクティビティーや課題が扱っているテーマを分類し、複数の巻に共通して多く

4. CELSO EMILIO FERREIRO

A. Le esta biografía de Celso Emilio Ferreiro. Crea que fivo unha vida interesante! Que lugares consideras que foron moi importantes na súa vida? Comparte con compañeiro.



Celso Emilio Ferreiro Míguez naceu en Celanova (Ourense) en 1912. Estudou nun colégio encaprichado, onde pronto recibiu unha boa formación cultural. En 1924, participa na constitución da Federación de Mocedades da UDC (Unión Democrática de Galicia) en Ourense. En 1936 é mobilizado na Guerra Civil e queda detido varios días no mosteiro de Celanova. Despois da guerra, regresa a Celanova e é nomeado de Santiago de Compostela, pero non remata a segundaria carreira. En 1935, publica *Cartón de postas*, o seu primeiro libro. En 1946, funda en Pontevedra a colección literaria *1000*, que publica autores galegos. En 1950, funda a revista *Galicia Allí* colaboren en vinte normas e revistas e publica, en 1954, *O sordu adaptado*. Asume o cargo de director da revista *Galicia Allí* en 1955. En 1956, publica *As Lengas nómadas*, a obra que o converte en unha figura do pensamento en Galicia e marca un filo na historia da literatura galega. Talvez por ser o autor que máis contribúe a dar visibilidade a doces autores.

En 1961 migra a Compostela, onde organiza as *Cooperativas culturais da Hermelinda Gallega e Irmáns publica*, entre outras. Víver ao lado dos avós (1968) e *Cartagena de escoceses e malvas* (1969).

En 1973, regresa a España e instálase en Madrid, onde dedicábase a traducir autores galegos para a editorial Planeta. Así, desempeñó un importante papel na divulgación e no fomento da lingua e da cultura galega. Desta época, *Cínteres priñores* (1973) e *Onde o mundo se olvidou* (1975). Murió en Madrid o 15 de novembro de 1990, deixando un auténtico legado vivo para as novas generacións. En 1995 publicanle o *Da Letras Gallegas*.

■ Este texto responde ao seguinte anexo: [información sobre Celso Emilio Ferreiro Míguez](#)

扱われているテーマを明らかにした。また、具体的な内容を分析し、その一部を紹介した。これらをまとめると、多く扱われているテーマは以下の3つに集約することができる。つまり、①ガリシア全般、ガリシア語、そしてガリシア文化（文学、映画、音楽など）についての知識の普及に重点をおいた課題、②商業、産業の現場での口頭のやり取り、および（求人・広告・メールなど）文書でガリシア語が用いられていること、ガリシア語で専門的な議論ができるなどを実感させる課題、③メールやマスメディアなど現代的媒体で現代的な話題を扱う課題、である。

一方、PXML の提案のうち、本教材シリーズあまり扱われていないものは、①行政でのガリシア語使用、②ポルトガル語圏とのつながり、③ガリシアの主力商品とガリシア語、④スポーツ、⑤医療、医薬品、獣医学、⑥外国人向けガリシア語教育、であった。

これらのテーマがあまり扱われない理由としては、次のことが考えられる。①行政でのガリシア語使用は、自治州内の住民向けの話題であり、「外国語」としてのガリシア語学習者には馴染みがないテーマである。②ポルトガル語圏とのつながりは、強調しすぎると、ガリシア語よりもポルトガル語という大言語の学習に利することに繋がりかねない。③ガリシアの主力商品を取り上げると、農林水産物が多いこともあり、ガリシア語と農漁村との繋がりがガリシア語に対する否定的イメージにつながりうる⁸ので、避けられた可能性がある。④スポーツや⑤医学は、学習者によっては関心が低く、扱いにくいこと、また、⑥外国人向けガリシア語教育など対外普及については、この教材の学習者自身がその対象であるため、メタ的なテーマになり、扱いにくいのかもしれない。

5. 結論と今後の課題

本稿でおこなった分析を通して、これらの教材が、ガリシア語を「外国語」として学ぶ非母語話者学習者に与えようとしている、あるいは与えうる主なイメージは次のようなものであると指摘できる。つまり、ガリシア語が、現代社会、特に商業、産業などの経済領域、および新しいメディアなどにおいて、通常に使われている言語であり、現代的なテーマを語れる言語であるというイメージである。これらは、いずれも PXML の掲げる目標の多くとも合致している。

しかし、PXML で提案されている諸施策は、ガリシア語の使用が少ない領域を中心に、ガリシア語の使用をさらに拡大することを目的としているため、同教材シリーズが重点を置いているこれらの領域は、現状では、カスティーリャ語使用が優勢な領域である。そのため、ガリシア語を学ぶためにガリシアの都市部の大学にやってくる多くの留学生が、実際には、これらの領域ではカスティーリャ語が使われていることが多いという現実を目の当たりにし、そのギャップに困惑することも予想される。

⁸ ガリシア語に対する住民の態度をインタビューやディスカッションなど質的手法を用いて調査した Seminario de Sociolingüística (2003:185-187) は、若者の間にガリシア語の伝統的な音声特徴を「田舎」の人々と結びつけ、社会的成功とは結びつきにくいというイメージが存在していることを指摘している。これは伝統的な偏見が依然根深く存在していることを示している。

このことを踏まえると、今後は、これらの教材を用いてガリシア語を学んでいる非母語話者学習者の経験や意見を調査する必要があるだろう。具体的には、ガリシア語講座参加者などに対し、教材で得られたガリシア語やガリシア全般に対するイメージと、実際のガリシアや言語に対するイメージとの差や、学習者自身がガリシア語を用いる際の困難などについてアンケート調査や聞き取り調査を実施する必要があるだろう。

本研究は、科学研究費助成事業 基盤研究(C)「「外国語」としての少数言語教育と少数言語復興政策に関する研究」(課題番号: 22K00566)の助成を受けたものである。

参考文献

- 柿原武史 (2017) :「ガリシア語の回復政策における在外ガリシア移民の存在」『商学論究』第 64 卷第 6 号, 関西学院大学商学研究会, pp.127-146.
- 萩尾生・長谷川信弥・塚原信行・柿原武史 (2015) :「越境する少数言語の射程—現代スペインにおける国家語と少数言語の対外普及政策」『ことばと社会』17 号, 三元社, pp.112-159.
- Chamorro, Margarita, da Silva, Ivonete e Núñez, Xaquín (2008a): *Aula de Galego 1*, Xunta de Galicia.
----- (2009a): *Aula de Galego 2*, Xunta de Galicia.
----- (2009b): *Aula de Galego 3*, Xunta de Galicia.
----- (2008b): *Aula de Galego 4*, Xunta de Galicia.
- Kakihara, Takeshi (2016): “La emigración gallega y la difusión de la lengua y cultura gallega”, *Lingüística Hispánica*, Vol.39, pp.41-56.
----- (2019): “A difusión exterior do galego e a diáspora galega”, *Madrygal. Revista de Estudios Gallegos*, 22, pp.277-284.
- Ramallo, Fernando (2013): “Neofalantismo”, en Gugenberger, Eva, Monteagudo, Henrique, Rei-Doval, Gabriel (eds.), *Contacto de linguas, hibridade, cambio: contextos, procesos e consecuencias* (pp.245-258). Consello da Cultura Galega / Instituto da Lingua Galega: Santiago de Compostela.
- Secretaría Xeral da Política Lingüística (2004): *Plan xeral de normalización da lingua galega*, https://www.lingua.gal/a-secretaria-xeral/plans-e-actuacions/_contido_0001/plan-xeral-normalizacion-lingua-galega (2022.9.6 閲覧)
- Seminario de sociolingüística (2003): *O galego segundo a mocidade*, Real Academia Galega, A Coruña, 2003.

(かきはら たけし / 関西学院大学)